

にんぎょうとうげ



発行：国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
バックエンド研究開発部門
人形峠環境技術センター 総務課
岡山県苫田郡鏡野町上齋原1550番地
電話 0868-44-2211 FAX 0868-44-2502

平成29年度 加工施設総合訓練を実施

11月22日、ウラン濃縮原型プラントにおいて、核燃料物質加工施設保安規定、原子力事業者防災業務計画及び核燃料物質加工施設核物質防護規定に基づく総合訓練を実施しました。

今回の訓練は、岡山県北部を震源とする地震（上齋原震度5弱）が発生し、建屋内の設備が破損し、安全装置が働かず、大量のウランが建屋内に漏洩。その後、鏡野町にて震度6弱の余震が発生し、建屋に亀裂が入ることで、ウランが建屋外へ大量に漏えいを想定し実施しました。

本年10月30日に改正された原子力災害特別措置法関係省令が施行され、新しい通報基準や報告様式を使用して、関係先への通報連絡訓練を行いました。

また、これまでの訓練や昨年10月21日の鳥取県中部地震の経験を生かし、事故終息への活動を行うことができました。

一方改善すべき点もあり、今後の訓練等で改善を図り、危機管理体制の充実に向け取り組んでまいります。

対策本部の様子



平成29年度 岡山県原子力防災訓練に参加

10月31日、平成29年度岡山県原子力防災訓練が上齋原オフサイトセンターで実施されました。

今回の訓練は、ウラン濃縮原型プラントのウラン貯蔵庫内で溶接作業中に火災が発生し、ウランを詰めた容器のバルブが破損して、大量のウランが漏えいするとともに負傷者や内部被ばくのおそれがある者が発生するとの想定で訓練が行われました。

当センターから16名が参加し、負傷者等の救急搬送、岡山県・鳥取県へ人員派遣、上齋原オフサイトセンターへの参集、放射線モニタリングや広報活動といった活動訓練、各組織の連携訓練を行いました。

また、緊急時モニタリングでは、参集した要員による防護具の着装、屋外の現場において放射能測定を行う実働訓練を行いました。

今後も、原子力事業者として、地元自治体を実施する訓練に積極的に参加していきます。

（安全管理課）



上齋原オフサイトセンターの様子

人形峠自然百景

『ツチアケビ』

森林内に生育する大型の腐生ラン科植物。笹やぶなどで豊富な腐植質の堆積する場所に見られる。多年生でナラタケと共生する。

センター内では東門近くの笹やぶ内で見られる。

果実は、強壮・強精剤の薬効成分があり、乾燥させたものが漢方薬として使用される。

果実期は10月～11月



シリーズ 人形峠 今昔物語

～第4回「濃縮プラント技術の実証と技術移転(1984～2014年)」～

パイロットプラントで技術確立された濃縮技術は、商用濃縮プラント向けに技術実証段階に移ります。1988年にはウラン濃縮原型プラントが運転し、商業規模に大型化、合理化したシステムにより無停止での濃縮ウランの生産が開始されました。また、1993年には、国際競争力の向上を目的として、新素材胴遠心分離機による実用規模カスケード試験装置の運転・試験を濃縮工学施設(旧ウラン濃縮パイロットプラント)で開始しました。これらのプラントは、実証された技術が商業濃縮プラントに採用されるとともに、人材育成の場としても活用され、設計から運転に至る広範囲で大きな役割を果たしています。



ウラン濃縮原型プラント
(1988～2001年)



実用規模カスケード試験装置
(1993～96年)



【ウラン濃縮原型プラント】

1989年に全面運開。13年間連続無停止運転により、約350t-Uの濃縮ウラン(発電所17基分の取替え燃料に相当)を生産し、それらの技術を商用濃縮プラントの設計、建設、運転に技術移転しました。

【実用規模カスケード試験装置】

4年間の試験・運転で確認した新素材胴遠心機の信頼性、基本特性が商業濃縮プラントの取替え用遠心機の開発に反映されています。

1984年頃の人形峠



原型プラントに搬入される六フッ化ウラン



原型プラントの運転開始式(1988年)



濃縮ウランの初出荷(1989年)



原型プラントの運転終了式(2001年)